



木更津高専だより

2026 February

Vol.

100



Contents

- | | |
|--------------------------------|------|
| ◆ 校長・教務主事対談 | 1 |
| ◆ 活動報告(地域共同テクノセンター、国際交流センター) | 2 |
| ◆ ロボコン(地区大会・全国大会) | 3 |
| ◆ プロコン、APAC HPC-AI Competition | 4 |
| ◆ ICPC2025 | 5 |
| ◆ 空手道部、 | |
| 電気学会東京支部主催第15回学生研究発表会 | 6 |
| ◆ 学園祭、マラソン大会 | 7 |
| ◆ 4年生見学旅行、学生表彰 | 8-10 |
| ◆ お知らせ | 11 |

校長・教務主事対談

テーマ



令和8年度からの 新カリキュラムについて

大学・高専機能強化事業の採択により編成される新カリキュラムについて、先村律雄校長と内田洋彰教務主事にお話を伺います。

Q1 大学・高専機能強化事業とはどのようなものなのですか？

校長 国が、これから社会を担う高度専門人財を育成する大学・高専を支援するために助成金を交付するものです。本校は KOSEN サイバーセキュリティ教育推進センター (K-SEC) を設置している状況から、サイバーセキュリティ教育に関する事業を申請しました。

教務主事 今やインターネットは社会活動に欠かせないツールとなっており、サイバー攻撃を受けると、その組織だけでなく社会広範に影響する事が昨今報じられております。本校では、このような社会ニーズに対応するため、セキュリティ技術を身につけた人材を育成する新たな教育プログラムを開始します。

Q2 今まで木更津高専ではセキュリティ教育に力を入れていたようですが？

教務主事 2016 年に木更津高専を含む5つの高専を拠点にスタートした K-SEC (Security Educational Community) の実績をもとに、2022 年に本校と高知高専を運営校としたセンター:K-SEC (KOSEN Security Educational Center) が高専機構に設置されました。実践的な演習の提供や教員研修を通じて全国のサイバーセキュリティ教育を支援し、次世代の高度セキュリティ人材育成に貢献しています。

校長 情報系の学生は、コンテストに積極的に参加しています。第1回国際人工知能オリンピック (ブルガリア、2024年) に本校の学生が日本代表として選ばれ銅賞を獲得。本校主催の KOSEN セキュリティコンテスト 2024 にて優勝。また、高専プログラミングコンテスト 2025 では 5 位入賞を果たし、2026 年 3 月にベトナムで開催される国際大会に参加するようです。

Q3 新カリキュラムの内容について教えてください。

教務主事 まず、全学科 1・2 年生の必修科目に「情報基礎」、「情報セキュリティ基礎」を導入します。その上で、情報工学科では、「AI・データサイエンス情報」と「セキュリティ情報」の 2 コー

ス制とし、その他 4 学科では各専門分野に対応した体系的なセキュリティ技術を身に付ける「プラスセキュリティコース」を開設します。また、図書館前に新棟を建設し各種演習の教室を設置する予定です。

Q4 この取組により育成が期待される人材像を教えてください。

校長 近い将来 AI 等を活用したオープンイノベーションが社会を動かす時代になるでしょう。本校で学んだ専門を駆使して、他人とのコミュニケーションや新しい技術の吸収をしながらより高いスキルを目指し、産業界やアカデミックの世界で先頭に立つエンジニアになって欲しいです。

Q5 最後に、読者に向けたコメントをお願いします。

教務主事 高専教育は、実践的な工学基礎と課題解決型学習を重視しており、これが起業家精神を育み、社会課題を解決する新しい価値を創出する力を養うアントレプレナーシップ教育と強く結びついています。近年は、全国高専でビジネスアイデア創出や試作を支援するプログラムやコンテストが整備され、学生が事業化に挑戦する機会も広がっています。

校長 本校の学生が技術コンテストに出場することはよくありますが、この前ファッショショナーの司会やその衣装の製作に関わっている姿を見て驚きました。本校で学んでいる専門と無関係に見えますが、不思議と、いつか“線”として結ばれます。新しいことにチャレンジしてください。



活動報告

地域共同テクノセンター

地域共同テクノセンター長 飯田 聰子（電気電子工学科 准教授）

地域共同テクノセンターは、本校の教職員や学生をはじめ、技術振興交流会や地域社会の皆様からの多大なるご支援のもと、高専の教育・研究環境を充実し、地域社会の STEAM 教育の推進と産業振興をはかるため、産業界や自治体と連携しながら、様々な活動を行っています。

今年度は、その活動の一環として、令和 7 年 11 月 15 日にガールスカウト千葉県連盟と協力し、「Girls Going Tech コンピューターの世界を知ろう！ in 千葉」を本校で初開催いたしました。イベントでは、小学生低学年向け「ライト☆カーをつくろう」、高学年向け「Arduino でメロディーとタイマーを作ろう♪」「電子オルガンを作ろう」、中学生向け「サイバーセキュリティ入門」の 4 講座を開講しました。参加者からは「コンピューターの仕組みをもっと知りたい」「プログラミングを得意にしたい」「ネットはすごく便利だけど怖いことも知れたので、今後は使い方を学びたい」など、今後の学びにつながる感想が寄せられ、女子小中学生への STEAM 教育に貢献できたと感じております。

今後も産学官連携をさらに強化してまいりますので、引き続きご支援を賜りますよう、何卒よろしくお願ひ申し上げます。



活動報告

国際交流センター

国際交流センター長 SAPKOTA ACHYUT（情報工学科 教授）

国際交流センターでは、本校学生の海外研修、留学生の受け入れ、海外教育機関との連携を通じて、多様で実践的な国際交流の推進に取り組んでいます。

令和 7 年度の本校学生の海外研修は、夏季期間（8・9 月）は、シンガポール・タイ・イギリス・マレーシア・モンゴルで実施し、合計 27 名が参加しました。授業参加、企業訪問、文化交流などの活動を行いました。また、春季期間（3 月）は、ドイツ・モンゴル・シンガポールで実施する予定です。

さらに、シンガポール・イギリス・マレーシア・ドイツから合計 33 名の留学生を受け入れました。本校の授業と学外の技術施設や文化施設の見学に参加しました。加えて、ドイツおよびマレーシアからの留学生は、本校主催の効果的工学教育国際ワークショップ（IWEEE）にも参加し、成果発表を行いました。本校学生と活発な交流を行い、海外研修に参加しない学生にとっても、留学生と交流する有意義な機会となりました。

本校は、高専教育の海外展開支援にも取り組んでおり、11 月にモンゴルの 6 高専の校長を含む教職員を対象に、本校の地域連携、学生指導およびキャリア支援を中心としたマネジメント研修を実施しました。





地区大会・全国大会

ロボット研究同好会 顧問 君塚 進（電子制御工学科 講師）

関東甲信越地区大会

2025年10月12日、群馬県のALSOKぐんま武道館において、高専ロボコン2025関東甲信越地区大会が開催されました。今年の競技テーマは『Great High Gate』です。この競技はロボットがボックスを積み上げてゲートをつくり、そのゲートを人が乗った台車と一緒に通過するというもので、ボックスを積み立ててつくるゲートの高さ、ボックスを積み上げるロボットの精確性や一連の動きの速度、そしてそれらを踏まえた戦略が問われる内容となっていました。関東甲信越地区大会では10キャンパス20チームが出場し、各チームがユニークなアイディアを魅せ合いました。

木更津高専Aチームの「それゆけキサンタクロース」は、トナカイをイメージしたロボットがサンタクロースの乗った橇をけん引してゲートを通り抜け、子供たちにプレゼントを配るというコンセプトのチームです。準決勝で惜しくも敗れましたが、準々決勝では関東甲信越地区大会での最高得点である235点を記録しました。

木更津高専Bチームの「オクト pass gate」は、

全国大会

地区大会の終わった翌日から多くの学生が学校に集まり、全国大会に向けてロボットのアピールポイントや機構の改良点、戦略などについて喧々諤々と議論を交わしていました。全国大会は11月16日に両国国技館で行われます。1ヶ月という短い期間に学生はロボットの改良や練習などに懸命に取り組んでいました。そして全国大会の1回戦で木更津高専は一関高専と対戦しました。序盤は有利に試合を進めていたのですが全国大会の緊張もあってか、大きなミスこそなかったものの練習ほどの速度を出せず、残り十数秒というところで一関高専にリードを許し惜しくも敗れてしまいました。

全国大会では悔しい結果となりましたがそれも含めて2年連続の全国出場は学生にとって良い経

験だったと思います。保護者の皆様、教職員の皆様には日々の活動への協力、大会での力強い声援を頂きましたこと心より感謝申し上げます。今後もロボコン活動を温かく見守っていただければ幸いです。

木更津高専Aチームはその優れた成績が認められ審査員特別賞をいただき、2年連続で全国への切符を手にすことができました。



験だったと思います。保護者の皆様、教職員の皆様には日々の活動への協力、大会での力強い声援を頂きましたこと心より感謝申し上げます。今後もロボコン活動を温かく見守っていただければ幸いです。



指導教員 大枝 真一 (情報工学科 教授)

競技部門全国5位特別賞受賞!

10月11日と12日に島根県松江市で開催された第36回全国高等専門学校プログラミングコンテストの競技部門に、制御・情報システム工学専攻1年の吉川祥生さん、情報工学科5年の内藤正浩さん、村石秀太さんの3人が出場しました。

競技部門のテーマは「工。-縁結びの誘導について-」で、数字が散りばめられたフィールドの一部を回転させることで、同じ数字を持つペアを作成していくパズル形式の課題に取り組みました。各チームはより多くのペアを少ない回転で作成することを目指します。

我々のチームは準決勝で一度敗れたものの、決勝の残り1枠を争う敗者復活戦「ラストワン決定戦」でみごと1位となり、決勝に進出しました。決勝では5位となり、特別賞を受賞しました。

特別賞の受賞により、3月にベトナムで行われるNAPROCK 第17回国際プログラミングコンテストへ出場することが決まりました。こちらも、本大会と同じ競技課題で順位を競います。これまで培ってきた技術と経験を最大限に生かし、チーム一丸となってプログラムの完成度をさらに高め、国際大会では優勝を目指して全力で挑みます。



特別賞受賞後の記念撮影

8th APAC HPC-AI Competition

指導教員 大枝 真一 (情報工学科 教授)

Excellent AI Performance 賞受賞

木更津高専チームが、8th APAC HPC-AI Competitionにおいて Excellent AI Performance 賞を受賞しました。APAC HPC-AI Competition はハイパフォーマンスコンピューティング (HPC) と AI 分野に関するアプリケーションの高速化、最適化技術を競う国際大会です。本年度は世界各国から 48 大学が出場し、木更津高専からは情報工学科の常木丈鳳さん、ISAAC YAP ZHEN KHALI さん、内藤正浩さん、秋本蒼空さん、越智優真さん（現在、南洋理工大学（シンガポール）所属）のチームが、理化学研究所のサポートを受けて出場しました。

我々のチームが取り組んだタスクは、AI モデルの一つの DeepSeek-R1 の推論ベンチマークのスループット（1秒間で生成できる文字、トークンの量）を最大化することが目的です。

使用した計算資源は、NVIDIA H100 や H200 GPU であり、1台あたり数百万円、クラスタ全体

では数千万円規模に達する最新世代の AI アクセラレータです。約 3 ヶ月にわたり、パラメータ調整や通信最適化などの多角的な取り組みを重ねた結果、初期スコアと比較して約 2 倍の高速化を達成し、みごと Excellent AI Performance 賞受賞しました。

本大会の授賞式は 2026 年 1 月 26 日から 1 月 29 日まで大阪にて開催される国際会議 SCA/ HPCAsia 2026 のプログラム内で行われます。



理化学研究所計算科学研究センター 富岳の前に

#RIKENStudentChallenge

ICPC 2025

指導教員 大枝 真一 (情報工学科 教授)

アジア地区横浜大会出場!

ICPC は、国際大学対抗プログラミングコンテスト (International Collegiate Programming Contest) の略称であり、同一大学に所属する3人1組のチームが、限られた時間内で与えられた問題を解決する能力を競う世界最大規模の競技プログラミング大会です。1970年代に始まった長い歴史を持ち、現在では毎年世界中から5万人以上の学生が参加しています。競技は国内予選、地域予選 (アジア地区大会など) を経て、世界大会へと進む厳しい選抜制となっており、世界大会には各大学から1チームのみが出場できる大学対抗の大会として位置づけられています。

競技プログラミングとは、アルゴリズムやデータ構造に関する知識を駆使し、数学的・論理的思考力をもとに、正確かつ高速にプログラムを実装する競技分野です。単にプログラムが書けるだけでなく、問題文を正確に理解し、制約条件を踏まえた最適な解法を考え、バグのないコードを短時間で完成させる総合力が求められます。ICPCでは、チームで1台のコンピュータを共有し、役割分担や相談を行いながら問題に挑むため、個人の技術力に加えて、チームワークや戦略立案能力も重要となります。



アジア地区横浜大会会場の前で

木更津高専からは、チームAquaとして情報工学科5年の内藤正浩さん、村石秀太さん、環境建設工学専攻1年の杉本脩さんが出場しました。国内予選は7月4日に開催され、全国の大学・高専から355チームが参加しました。本チームは9問中5問を正解し、見事に国内予選を突破してアジア地区横浜大会への出場権を獲得しました。

アジア地区横浜大会は12月6日に開催され、予選を勝ち抜いた日本およびアジア各国の強豪校63チームが集結しました。9時から14時までの5時間にわたる競技時間中、本チームは12問中3問を正解し、54位という成績を収めました。国際大会であるICPCでは、問題文の提示や運営スタッフとのやり取りはすべて英語で行われます。学生たちは、高度なアルゴリズムの知識と実装能力に加え、専門的な内容を英語で正確に理解する力も同時に試される、極めてハイレベルな環境の中で堂々と戦いました。

本大会への挑戦は、学生たちにとって世界水準の技術力や競争の厳しさを肌で感じる貴重な経験となりました。この経験を糧に、今後さらなる技術力向上と活躍を期待します。



大会中の様子

第17回 日本武道空手大学選手権大会

空手道部顧問 浅野 洋介（電気電子工学科 准教授）

6月29日に空手道部は千葉大学で開催された「第17回日本武道空手大学選手権大会」に出場し、団体戦では十数年ぶりとなる待望の白星を挙げました。さらに、個人賞としてC4清水遙矢さんが技能賞、M2大空あいみさんが敢闘賞を受賞し、大学生主体の大会で存在感を示しました。

空手道部は前任の小平名誉教授が学生とともに木更津高専創立当初に設立された歴史ある部活動の1つです。現在は約10名が所属し、卒業生がコーチとして空手の技術だけでなく、社会人の先輩として心構えも指導しています。

一時期は部員がゼロという存続の危機もありましたが、4名の新入生が入部したことをきっかけに新生・空手道部として再スタートを切ることができました。

その新入生も今や4年生となり、3度目の挑戦となった今大会では、早稲田大学を相手につい

初勝利を収めました。さらに、強豪・東北大学戦では接戦でしたが惜しくも敗れ、決勝リーグ進出は叶いませんでした。しかしこの1勝は部にとって大きな前進となりました。本大会では団体表彰に加えて、個人表彰も用意されており、冒頭の通り各賞を受賞しています。

今後も稽古を重ね、優勝を目指して鍛錬していきます。まずは来年の大会で決勝の舞台へ。皆さまの応援を力に、さらなる高みを目指します。



電気学会東京支部主催 学生研究発表会

第15回

指導教員 大野 貴信（電気電子工学科 准教授）

8月22日、早稲田大学西早稲田キャンパスにて電気学会東京支部主催「第15回学生研究発表会」が開催されました。本発表会には、高専生から大学院生まで幅広い層が参加し、全138件の講演が10会場に分かれて行われました。その中で、本校電気電子工学科5年藤原奏音さんは「トリプレクサを用いた電子レンジにおける食品の厚さを変化させた場合の吸収電力密度に関する解析」という題目で、初めての学会発表に臨みました。限られた時間の中で要点を的確にまとめ、明瞭な説明を行ったことに加え、質疑応答においても冷静に受け答えした点が高く評価され、各会場から選出される上位2名に入り、見事「優秀発表賞」を受賞しました。藤原さんはこれまで勉強や研究活動に熱心に

取り組み、細かな検討や準備を積み重ねてきました。そうした日々の努力が、今回の成果につながったといえます。この経験を大きな励みに、今後も更なる成長と活躍を期待しています。

また、今回の受賞により、当研究室の在籍生および卒業生による受賞件数は通算17件となりました。学生の取り組みが外部から評価されることの大変喜ばしく、今後の研究活動の一層の活性化につながるものと考えています。



優秀発表賞を授与された
藤原奏音さん

学園祭（祇園祭） 学生主事補 能城 沙織（情報工学科 准教授）

11月1、2日に「New wind of kosen ~新時代の風を巻き起こせ~」のテーマの下、木更津高専祇園祭を開催しました。2日間を通して天候にも恵まれ、来場者の皆様に快適に楽しんでいただけた祇園祭になったのではないかと思います。2日間合わせて約3500人のお客様にご来場いただきました。

特に印象的だったのは、すべての企画が予定通り実施されたことです。例年は様々な事情から中止や取り下げが出ることもありますが、今年はどの企画も最後までやり切ることができ、来場者の皆様に存分に楽しんでいただけました。各企画の準備や運営に携わった学生たちの努力と、互いに支え合う姿勢が、この結果につながったのだと思います。

祇園祭は、学生たちが主体となって作り上げる本校ならではの行事です。多くの方にご来場いただき、無事に全企画を終えることができたことは、学生たちにとって大きな自信となったことだと思います。半年間の準備に取り組んだ実行委員、そして各企画を形にした学生たちの頑張りに、心から拍手を送りたいと思います。



マラソン大会

学生主事補 伊藤 裕一（機械工学科 教授）

2025年12月18日（木）、比較的穏やかな寒さの中、本校恒例のマラソン大会が開催されました。準学士課程（本科）1年生から3年生を中心に、多くの学生と一部の教職員が参加し、寒空の下でも元気に大会に臨む姿が印象的でした。

大会は学年ごとに分かれて行われ、1年生の部、2年生の部、3年生の部の順に競技が進行しました。コースは400mトラックを1周した後、正門を出て学校外周を反時計回りに裏門まで走り、再びトラックに戻るという周回コースを3周する合計4.4kmのコースです。参加者たちは寒さに負けず、懸命に走り抜けていきました。また、今大会には有志の4年生が1名参加し、さらに校長を含む教員4名も加わり、学生たちと一緒に汗を流しました。今大会3年生の部で学年1位となった環境都市工学科3年の男子・女子両学生は3年連続1位となりました。日々のたゆまぬ鍛錬の成果であり大いに称賛されるべきものです。本校の校歌「風のランナー」に込められた、前向きに進む精神を彷彿とさせる力強い走りでした。

このマラソン大会は、本校の教育方針の一つである「心身の鍛錬」の成果を如実に示す、意義深い行事となりました。寒さに負けない体力と精神力、そして最後まで諦めずに走り抜く忍耐力を養う貴重な機会となり、参加した学生たちにとって大きな自信につながると考えます。



緊張と笑顔が交差するスタート3秒前

4年生見学旅行

機械工学科

担任 松井 翔太

機械工学科4年生は11月4日から7日にかけて関西方面へ見学旅行を実施しました。自身の都合により、今回の見学旅行は歸山教員が引率してくださりました。学友との親睦を深めるとともに、日本を代表する技術企業を訪問し、将来を考える機会とすることが目的で、2・3日目に企業見学を行いました。学生たちは、2日目の午前は大昭和精機淡路島工場を訪問し、ツーリング製造工程や自動化された高能率生産、快適な作業環境に触れ、社員の丁寧な説明からものづくりへの誇りを感じ取りました。午後はユニバーサル・スタジオ・ジャパンを運営する合同会社ユー・エス・ジェイを訪れ、アトラクションの整備・保守を支える技術や裏方の努力を学び、安全と楽しさを支える専門性の高さに感銘を受けたようです。3日目の午前はシスメックス株式会社を訪問し、検体検査機器の製造現場や研究環境を見学し、高専卒社員との交流を通じて企業の温かい風土に触れました。午後は神戸製鋼所加古川製鉄所を見学し、巨大設備の迫力と高度な管理体制、資源の有効活用や安全管理の重要性を学びました。最終日は現地解散となり、学生たちはUSJや京都を観光して帰校しました。今回の見学で得た貴重な経験が、今後の進路選択に生きていこうことを期待しています。



電気電子工学科

担任 水越 彰仁

本年度の4年生見学旅行は、滋賀県・京都府・兵庫県の関西方面にて実施しました。1日目はヤンマーパワーソリューション株式会社 尼崎工場を訪問し、大型エンジン製造の現場を見学しました。学生たちは製造ラインの自動化や品質管理の取り組みについて丁寧な説明を受け、加工から組立に至る工程を実際に見ることで、ものづくりへの理解を深めることができました。

2日目は京都府のローム株式会社を訪問し、半導体デバイスの開発・製造に関する説明を受けました。続いてダイキン工業株式会社 滋賀製作所では、空調機器の製造工程を見学しました。異なる分野の企業を訪れたことで、学生たちは産業界における電気電子工学の役割や技術課題について多角的に学ぶことができ、今後の学習や進路を考えるうえで貴重な経験となりました。

3日目は大阪・京都周辺において、学生が各自で計画した自由見学を行いました。自主的な行動を通じて、地域の文化や歴史に触れるとともに、計画性や協調性を養う良い機会となりました。

本見学旅行は、学生にとって大変有意義な学びの場となりました。最後に、工場見学を快く受け入れていただいた各企業の皆様に心より感謝申し上げます。



電子制御工学科

担任 沢口 義人

電子制御工学科の見学旅行は、関西方面を行き先としました。初日はバスで羽田に向かい、最初の見学先である ANA 機体工場にて、飛行機の定期点検であるドック整備の現場を間近に見学しました。空の旅の安全確保のために、機体各部を分解して点検する様子や、整備士の経験年数をヘルメットの色で可視化する工夫などが印象的でした。見学後は羽田空港から伊丹空港へ飛び、3泊を過ごす心斎橋のホテルへ移動しました。

2日目の午前には、三菱重工株式会社の神戸造船所を見学しました。原子力発電用の巨大装置の製造過程を目の当たりにし、特殊形状の穴を数多く加工する生産技術など、重工業ならではのものづくりを実感しました。高専 OB との座談会も設けていただき、活発な質疑が交わされました。

2日目午後は、木村化工機株式会社の本社・尼崎工場を見学しました。工場にて溶接や 3D 形状計測の技術を、開発部にて試験分析や研究開発の様子などを、じっくりと拝見しました。また工場やプラントの立ち上げから保守までの、ものづくりを支える技術について、ていねいにご説明をいただきました。

3日目の自由行動ではグループごとに大阪や京都、姫路、奈良などを見学し、4日目朝に無事解散となりました。

学生のみなさんがこの見学旅行の経験を今後の進路選択に役立ててくれることを祈念しています。また、見学を受け入れてくださった企業のみなさまに、深く感謝を申し上げます。



情報工学科

担任 米村 恵一

情報工学科 4年生は、11月4日(火)～7日(金)の4日間にかけて東京と大阪の企業を訪問しました。4日(火)の朝、バスにて本校を出発したのちに、午前にサイボウズ株式会社東京オフィスを見学させていただき、サイボウズのセキュリティ組織である CySIRT の業務紹介をいただき、オフィス内を見学させていただきました。ビルの高層階で眺めもとてもよく、カフェのような図書館のような、アート感にあふれる素敵なおオフィスでみんなこのようなところで働きたいなと思いました。午後には、アクセント赤坂インターナショナルへ訪問させていただき、会社説明、オフィスツアー、本校 OB からの働き方のお話をいただきました。いわゆる世界 5 大コンサルの一角であるアクセントですが、他のコンサルとは一線を画す技術集団としての、強さ、誇りを深く感じ味わうことができ、みんなも本当に感銘を受け、アクセントで働きたいな、という考えを持ったようでした。夕刻、新幹線で大阪へ移動し大阪泊、5日(水)の午前は大阪城の天守閣に登りました。午後は、さくらインターネット株式会社へ行きました。日本のクラウド基盤、通信を支える偉大な仕事っぷりを、高専 OB のお話を聞いたり、データセンターの内部を見学させていただいたりすることで、強く実感することができました。その夜から、ユニバーサルスタジオジャパンに連結したホテルに連泊し、6(木)の自由行動、7(金)の朝の現地解散(からの自由行動)へのベースとし、みんな 2 日間(それ以上かな)の関西旅行を満喫して、大きく成長して無事に戻ってきました。見学させていただいた企業のみなさま、色々とご手配いただいた旅行会社のみなさま、保護者のみなさま、本校の関係各位、そして情報工学科 4 年生のみんなに心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。



環境都市工学科

担任 島崎 彦人

環境都市工学科の一行は、九州の長崎から福岡にかけて3泊4日の見学旅行を実施しました。初日は、小ヶ倉ダムやながさき女神大橋を訪れ、地域の人々の暮らしを支える土木構造物の構造と役割について理解を深めました。夜には、日本三大夜景のひとつに数えられる稻佐山から長崎港を一望し、すり鉢状の斜面に点在する住宅の灯りが星のように輝く光景に、一同大きな感銘を受けました。

2日目は自由研修とし、世界遺産を含む歴史的景観や独自の文化、起伏に富んだ街並みを巡ることで、長崎という街が歩んできた多層的な歴史を体感しました。

3日目は、午前に雲仙普賢岳の火山災害学習施設を訪れ、火山活動が地域社会に与える影響と防災の重要性について学びました。午後には地熱蒸気を活用した地熱料理や足湯を体験し、自然の営力がもたらす脅威と恵みの両面を理解する貴重な機会となりました。

最終日は、諫早湾干拓事業によって整備された堤防道路と中央干拓地を視察し、防災と環境保全を両立させる公共事業のあり方について考察を深めました。旅の締めくくりとして太宰府天満宮に参拝し、それぞれが希望する進路を胸に、新たな決意をもって帰路につきました。



学生の特別表彰

次の学生の皆さんには、課外活動および学業において優れた成果を挙げた業績により特別表彰として校長より賞状と副賞が授与されました。

2025年3月27日 認定

団体名「m01nm01n (モインモイン)」

情報工学科 4年 常木丈鳳、秋本 蒼空、川崎 直紀

当該団体が、各種大会で顕著な成績を収めることに対し、特別表彰とされた。

- ①高専セキュリティコンテスト 2024 (優勝)
- ②Pico CTF 2025 (世界 15 位、日本学生 5 位)
- ③PascalCTF 2024 (7 位 / 570 チーム)
- ④日・ウクライナ CTF イベント (第 5 位)
- ⑤『CyberSakura CTF 大会』

Powered by Hitachi Solutions Create, Ltd. (2 位)

2025年3月24日 認定

令和7年度優秀学生賞

機械工学科 5年

豊田 隆人

電気電子工学科 5年

松下虎太郎

電子制御工学科 5年

菅原 琢生

情報工学科 5年

小野矢真人

環境都市工学科 5年

渡邊 暖己

2025年12月16日 認定

日本リモートセンシング学会第78回(令和7年度春季)

学術講演会 優秀論文発表賞、若手奨励賞

環境建設工学専攻 1年 高宮 青空

2026年1月以降に認定された被表彰者については、次号で掲載します。

お知らせ

保健室より

少しづつ春の訪れが感じられるようになってきましたが、インフルエンザ・新型コロナウイルス感染症やノロウイルスによる感染性胃腸炎もまだ注意が必要な季節です。

感染症予防の基本は、正しい手洗いです。石鹼をよく泡立てて、トイレの後、食事の前、調理の前後、外出から帰宅した時など、忘れずに行うようにしましょう。

- ・十分な休養と栄養補給、うがい、咳エチケット、マスクの着用を心がけましょう。
- ・体調が悪い時には、電子出席簿で報告し登校を控えてください。感染症に感染している、またはその疑いがあると診断された場合は、必ず学校（学生課教務係 0438-30-4040）に連絡してください。別途指定様式を提出する必要があります。
- ・春休み中は生活のリズムが崩れがちです。新学期に良いスタートが切れるよう、休み中も規則正しい生活を送るようにしましょう!



〈毎日を健やかに過ごすための睡眠5原則〉

- ①適度な長さで休養感のある睡眠を
…6時間以上を目安に十分な睡眠時間を確保
- ②光・温度・音に配慮した、良い睡眠のための環境づくりを心かけて
- ③適度な運動、しっかり朝食、寝る前のリラックスで眠りと目覚めのメリハリを
- ④嗜好品とのつきあい方に気をつけて
…カフェインは控えめに
- ⑤眠れない、眠りに不安を覚えたら専門家に相談を

睡眠環境・生活習慣・嗜好品に 気を付けて Good sleep を!

（厚生労働科学研究費補助金循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業「適切な睡眠・休養促進に寄与する「新・健康づくりのための睡眠指針」と連動した行動・習慣改善ツール開発及び環境整備」研究班（研究代表者 栗山健一 国立精神神経医療研究センター）において作成された「Good Sleep ガイド（ぐっすりガイド）」より引用）

年度末・年度始めの行事予定

- | | |
|---------------------|-----------|
| 2/24 (火) ~ 3/31 (火) | 学年末休業 |
| 3/19 (木) | 卒業式・修了式 |
| 4/1 (水) ~ 4/3 (金) | 春季休業 |
| 4/4 (土) | 開寮（2年生以上） |
| 4/5 (日) | 開寮（新入生） |
| 4/6 (月) | 入学式 |
| 4/7 (火) | 始業式 |
| 4/8 (水) | 授業開始 |



学生相談室より

学生相談室は、皆さん一人一人が充実した学生生活を送れるようにサポートしていくところです。相談内容について、かたく秘密を守りますので安心してください。相談室は講義棟A 1階保健室隣にあります。保護者の方の相談も対応いたします。

★相談内容としては次のようなことが挙げられます。

- ・学業・進路について
- ・自分の性格や対人関係について
- ・健康について
- ・その他（家庭の事情で悩んでいる、経済的に困っている、恋愛、性、宗教のことでの悩みなど……）

★いつ？

■学生相談室長及び看護師は、随時

■カウンセラー

（長期休業期間や試験期間は変更の可能性があります）

月曜日の 12 時～17 時 火曜日の 10 時～17 時

水曜日の 13 時～17 時 木曜日の 13 時～18 時

金曜日の 12 時～17 時

■スクールソーシャルワーカー

月 2 回（第 1・第 3 水曜日）13 時～17 時



★相談予約は、保健室で受け付けています。

電話：0438-30-4036

E-mail：soudan@a.kisarazu.ac.jp

教職員の異動

退職

令和 7 年 9 月 30 日

奥山 彰夢（電子制御工学科 准教授）

中村 隼司（学生課 一般職員（学生支援係））

非常勤教職員を除く

教職員表彰

“祝”永年勤続

石井 建樹（環境都市工学科 教授）



叙勲

高橋 克夫（名誉教授）：瑞宝小綬章



独立行政法人 国立高等専門学校機構

木更津工業高等専門学校



木更津高専だより第 100 号 令和 8 年 2 月発行

〒292-0041 木更津市清見台東 2-11-1

☎ 0438-30-4000

ホームページ <https://www.kisarazu.ac.jp/>